

動作が可能なオフィ
藤沢市）

インテリア感覚に支持

市販の商品に満足出来ない消費者が多いとみたリビング・デザインセンターOZONE（東京・西新宿）は、今年六月にフリーのデザイナーによる試作品を集めた展示会を開催した。

その時の作品を商品化し、インターネット販売に乗りだしたのが、フロッピーディスクドライブなど、パソコン周辺機器のデザインを手がける工業デザイナー、酒井俊彦さん（33）。プリンターと書類などを収納できるラック兼デスクと、通常タイプのデスクの二種類を木で作った。

木にこだわったのは「家具として部屋にも合うし、くつろげるから」といい、ポップなイメージに仕上げるため、側面の板は黄色やオレンジ色のビニールでくるんだ。酒井さんの作品は建築家、半谷仁子さん（40）のキッチンワゴン型ラックとともに、十一月に横浜で開かれた「女性のためのネットワーキング・フェア'96」にも出品された。

X　X

十一月末、東京・有明で開かれた国内最大の家具展示会、東京国際家具見本市でも日本インテリアデザイナー協会が「パソコンのあるホームオフィス」のブースを設置、会場は見物客であふれた。

パソコン家具市場はまだ発展途上で消費者の関心も高い。家具メーカー、デザイナーの新作が今後ますます増えるのは間違いない。



自作家具のインターネット通販に取り組む酒井さん（東京・港区の事務所）

語る井村さんはさらに、「パソコンが液晶画面とキーボードだけになった時の家具デザイン」を考案中だ。

X　X

パソコンデスクは家具業界久々の期待商品。昨年来のパソコンブームと相まって、OA機器や家具メーカーが続々と新製品を投入している。

だが、消費者側には「パソコンや関連商品のデザインは洗練されているとはいえず、周辺のインテリアと合わない」（丸井インザル

と呼ぼう」と提案、少女も首をひねりながら受け入れる。

マトラとは宇宙・国防・通信

めてクールに描いた、エドワード・ヤン監督らしい作品だ。

石鍋仁美